

先輩達の真摯な姿や活躍が 後輩を勇気づける

森ノ宮医療学園校友会 会長 浜田 暁



薫風の候 会員の皆さまにおかれましてはご健勝にて、各方面でご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

平素は校友会活動にご理解とご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

東日本を襲った地震と大津波は、未曾有の被害をもたらし、多大な尊い人命が奪われたことに、哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々には心よりお見舞い申し上げ、迅速に復興が進むことを願うばかりです。被災された方のなかには校友会会員も数名おられます。状況に応じ、校友会として支援を検討しております。どうぞご支援をお願い申し上げます。

さて、3月に母校、森ノ宮医療学園専門学校から約300名が、森ノ宮医療大学からは第1期生、100余名が社会に、あるいは学問の道へと巣立って行きました。卒業式での晴れやかな笑顔は、すべてを明るく輝かせてくれ、彼らの洋々たる前途にエールを送りたいと存じます。また4月には、専門学校では、昨年竣工したアネックス校舎講堂で、初めて入学式が行われ、300余名が入学し、大学では今春開学の看護学科、大学院を含め200余名が入学し、学園が将来構想の1つとして掲げる「夢の実現」に向けての新たな挑戦がスタートいたしました。校友会としましては、これまで同様、見守ってゆきたいと思います。

ところで、校友会としては、少子化により学生の確保が厳しくなっている現状にあって、着実に発展している母校に対し、会員の皆さま方にご理解をいただき、教育環境の充実に資すべく、専門学校、大学各々に1千万円を寄付いたしました。

校友会も年々大世帯になり、果たすべき役割の重要性を痛感しております。高齢化の進展は、私たち施術者にとっては力量が発揮できる領域の拡大ともなりえますが、医療制度改革のあり方如何によっては必ずしもプラスに作用するとは限りません。各々が与えられた所で、必要とする医療を真摯に提供することで患者さまに喜ばれ、またそれら社会で活躍する姿は後輩たちに勇気を与えるはずです。そのためにも私たちは学園で学んだ医療人の心を忘れることなく、より高い確かな技術をもって、安全・安心の医療が提供できるよう更なる研鑽を積まなければなりません。校友会としても卒後教育、生涯教育の機会を多く設け、サポートしてまいりたいと計画しております。専門学校の鍼灸部会、柔道整復部会、大学の鍼灸部会、理学療法部会、また看護部会がそれぞれ有機的に連携し、学生支援とともに会員支援を目指してまいります。会員の皆さまには変わらぬご支援をお願いするとともに、新たに誕生した大学部会の活躍を期待しております。